



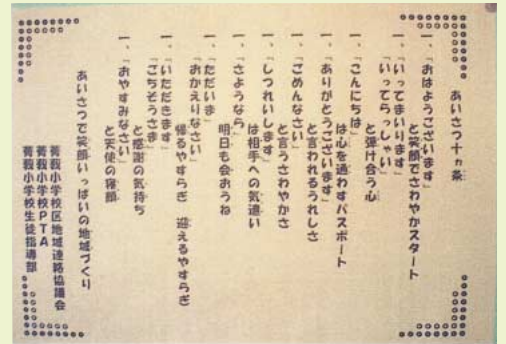
ホタルの生育状況の観察

「ホタルの卵」は冬の間に水槽の中で過ごします。春になって、えさやりなどの世話をし、初夏に成虫となって光を放ちます。昨年は体育館でホタル鑑賞会を実施できました。今年も多くの皆さんに鑑賞してもらいたいと思います。

また、『相手よりいつでも先に続けて』行う気持ちのよいあいさつ運動に取り組んでいます。

# わが校 自慢 学校の広場

## ～菁莪小学校～



地域で取り組む「あいさつ十ヶ条」

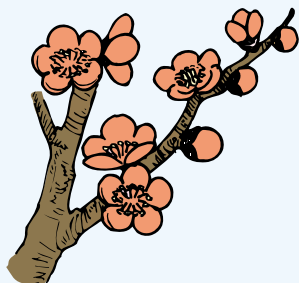
### 心豊かな おおぎりの子

校庭にそびえるおおぎりの木が、20年の歴史を物語っています。その間、学校は地域のかたがたに支えられてきました。

人は、さまざまな関わりを通して人格が形成されていく過程で夢を描き、希望を持ち、時として悩み、苦しみ、人間としての在り方や生き方を自らに問いかけます。この問いかけを繰り返すことにより、人格もまた磨かれていくものでしょう。

本校では、道徳教育を核にして、日々、心豊かな児童の育成に取り組んでいます。数々の体験活動や地域のかたがたのお力添えによって、子どもたちの心の中にたいせつなおもいが積み重なることを期待しました。

ここに紹介しますのは、3年生から4年生に引き継いで育てる「ホタルの飼育」と今年度地域連絡協議会の中で話し合われて完成をみた「あいさつ十ヶ条」です。



動物形土製品は、数の少ない遺物として貴重ですが、成獣幼獣同体という例は他に例のないたいへん貴重な資料です。

## イノシシ形土製品 - 祈りの形象 -

入耕地遺跡の縄文後期の住居跡から、変わった形の土製品が出土したのは、平成3年夏のことです。

円筒形の胴に白のような頭部と短い足、イノシシだろうと当たりをつけて調べても類例がありません。腹部には乳房と思われる表現があるのに、幼獣特有の縞模様の表現を併せています。

3千年前の縄文人は、狩りの成功と獲物である動物たちの繁栄を、多産な動物「イノシシ」に託して祈ったのでしょう。成獣と幼獣を一体に併せて表現したのも、出産と成長をひとつのサイクルとして認識していた表れといえます。

彼らの真しな祈りの向こう側に、大自然に対する畏敬の念を垣間見た気がします。

## ふるさと 白岡紀行

